



非破壊検査装置の開発を手掛けるマイクロフィックス（浜松市、加藤博良社長）はこのほど、ねじ穴の内部にキズがないか高精度に検査する装置の開発に乗り出した。直径1.5mmの気泡のようなキズも見逃さない。厳しい安全基準と向き合う自動車業界などが、同社の開発動向に熱い視線を送っている。

同社はすでに、磁気センサーをねじ穴の中に入れて、渦電流の変化を分析してキズなどを特定する装置を製品化している。しかし磁気センサーは温度の影響を受けやすく、検査対象物が冷えてしまうと精度も下がる弱点があった。

そこで同社は今回、遠赤外線を検査対象物など

## 派実たくはばたかおがし

### マイクロフィックス

#### 《会社概要》

▽所在地 浜松市東区中野町1111  
 ▽事業内容 非破壊検査装置の開発など  
 ▽設立 1994年3月  
 ▽従業員 8人  
 ▽売上高 約4500万円  
 (2011年6月期見込み)

を温め、精度を向上させる仕組みの開発に着手した。コイル巻きなど微細加工が得意なセルコ（長野県小諸市）と、基板設計などを得意とする電興社（浜松市）と共同開発体制を構築。経済産業省の中小企業支援制度である「新連携」の認定を受ける

「新連携」の認定を受ける

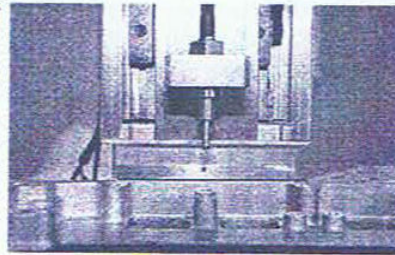


加藤博良社長

「新連携」の認定を受ける

万が一、振動などの影響

## ねじ穴検査の精度向上



磁気センサーと赤外線を使いねじ穴の細かな傷も見逃さない

でネジがゆるめば、電池やモーターなどの心臓部で大きな故障や事故が起る可能性もあるから、自動車の限らず、機械や装置が小型・高性能化するほど、どの分野でもネジとネジ穴の品質が重なることになる。大手各社は現在も細心の注意を払って検査しているが、ねじ穴内部のわずかなキズを自

（加藤社長）。しかし、

「開発に集中できる時間ができたからラッキーだった」と意に介さない。経営環境は厳しいが、

「顧客企業」からの大きな拍手が技術屋にとって最高の報酬」が経営理念となった。

リーマン・ショックの影響で検査装置の需要は2年前から大幅に減った。経営環境は厳しいが、

「顧客企業」からの大きな拍手が技術屋にとって最高の報酬」が経営理念となった。

静岡

静岡0554・25317191  
浜松053・45218593

当社マイクロフィックスは経済産業局の中小企業支援事業制度である新連携事業の認定を受けました。そのご支援、及び株式会社セルコ、株式会社電興社殿の協力を受け、次世代のお客様の高いご要望にお応えうる高精度タップ穴検査機器の開発に努めてまいります。

株式会社マイクロフィックス  
 代表取締役 加藤博良